

SAPIENS 導入事例 検証！システムビッグバンの現場

JA 千葉経済連 vs (株) 全農情報サービス

JA 千葉経済連における SAPIENS 活用

編集部

農協（農業協同組合）における SAPIENS 活用報告の第二弾である。今回は「SAPIENS 導入は革命的であった」と言い切る JA 千葉経済連に聞いた。同経済連では、先駆的に SAPIENS というツール導入をした新規開発環境を創出するとともに「新購買システム（経済連と農協の販売精算業務）」を実稼働させたという驚異的効果を実現させてみせている。8月号では、全国農業協同組合連合会（JA 全農）という全国組織への統合化に対応して、あくまでも県レベルの経済連の存在を主張する JA 熊本経済連における SAPIENS 活用を聞いたが、今回は 2001 年をメドに JA 全農と統合する JA 千葉経済連における SAPIENS 活用である。聞き手は前回同様、全農情報サービスの木村政実西日本支店長（当時）である。一味違う「全農 vs 県連」である。（編集部）

電算部自体のあり方／考え方も考える

木村政実 SAPIENS という開発ツールを導入した経緯、動機といったものから伺いたいのですが。

深山正己 その具体的な詳しい経緯につきましては、専門家の方から申し上げますが、まず私からは、私ども千葉経済連の電算部が、トップの期待ということも含めて、どういう内部状況／環境の中にあっただから申し上げます。

私どもは原則として「中期 3 ヶ年計画」というものに基づいた情報システム化を展開してきていまして、直近のものは 98 年 4 月から始まっております。計画作業自体は半年を目途に策定されてきております。

私どもの具体的な情報処理サービスは、大きく分けると、①農業業務アプリケーションと、②経済連内部の業務アプリケーションとの 2 つがあるのですが、今回の 3 ヶ年事業計画では「新購買システムの開発」と「農業システムの再開発」を手掛けることになりました。

具体的なアプリケーション開発「新しい購買システムの構築」では、実はこの開発を契機として、過去長年にわた





って踏襲されてきた情報システム化のやり方、展開方法自体も、根底から見直し、電算部全体のあり方も考え直してみようと思いました。

この「電算部自体のあり方、考え方を見直してくれ」というのは、私ども役員トップからの指示でもあり、強い要望／期待として出されていたものであり、昨今の全農と各県経済連の動きなど、農業協同組合全体の動きを考えます

と、やはり情報処理の展開方法および情報システム部門のあり方は大きな節目にきていることが解りますし、それを考え直すということは、文字通りの「時代の要請」だと認識した次第です。

木村 なるほど、ただ単に従来システムの更新が目的ではなかったということですね。

深山 そうということです。

では情報処理のやり方、システム開発の方法を変えるといった場合、具体的に何をしたら「やり方を変え」「考え方を変える」ことになるのかを考え、悩んだのですが、私がそのポイントにおきましたのは、人事関係に籍をおいていたこともあったからかもしれませんが、今現在、電算部に在籍しているシステム要員が、ただ人事ローテーションだからといって、その責務を瞬間的に果たしていただく、というのではなく、将来的なキャリアパスとして身につく情報処理のやり方、システム開発の方法はないかなということでした。

ちょっと格好いい言い方過ぎるかもしれませんが、電算部に在籍したことが将来的にも活かせる手法、方法を念頭において検討してもらいました。

そこで、伊東課長を中心としたメンバーにいろいろと当たってもらった結果、SAPIENSというツールがいいのではないかということになりました。

部門員のキャリアパスにも

木村 では SAPIENS を採用してみようとなった一番の理由というところ・・・

深山 専門用語だとオブジェクト指向とかいうことになるのですが、要するに、まずは要求定義に基づいてシステム開発をし、使用（試用）してみて、不都合があればすぐに手直しをして、直ちに使用できる、というスパイラル（らせん階段式）のアプリケーション開発方式が採用できるということに一番の魅力を感じました。

特に、このスパイラル方式を採用することで、電算部門要員が、コンピュータの専門技術領域にだけ張り付いているのではなく、常に現業部門のアプリケーション業務内容と密着した作業ができる環境になるだろうし、そのことが部門員の将来的キャリアパスとしても良いことではないかと考えました。

木村 深山さんならではの素晴らしい着眼点だと思います。ところで、今現在、電算部門には何名の要員がいますか。



深山 オペレーション担当者も含めて全体で 25 名、そのうち開発が 13 名という陣容です。

木村 決して多い方ではありませんね。その意味で生産性向上というのも、大きな狙いだったということでしょうね。

深山 私は技術者ではありませんので、細かな部分に至るまでは解りませんが、開発段階における生産性向上についても、当然期待は致しました。しかし、本当のところは使ってみなければ解らないわけですし、SAPIENS の導入経費の問題もあるわけですから、最終的にトップ採決してくれた会長ほか役員の英断でした。

木村 ハードウェア費用としてはどうですか。

深山 IBM の AS/400 を使いまして、将来的にはメインフレームマシンの撤去も見通しがつきましたので、大幅なコストダウンが実現可能となります。

木村 どのユーザーでも言えることでしょうか、ソフトウェア資源として過去の膨大な書類を持っているわけですから、それらをベースとしないで新たに書き換えていくというのは、トップも含めて電算部門としても英断でしたね。

深山 そう言えばそうかもしれませんが、やはり、当初のコンピュータ導入の段階も英断／決断があったわけですから、その決意と覚悟は今も同じではないかと思います。

木村 そうしたものがなくては、変わらないし、変わらないということでしょうね。

深山 そういうことだと思います。

「こんなこと本当にできるの」

木村 では実際に SAPIENS を活用している立場として伺いたいと思います。部長の指示でいろいろなツール、方法論を探したと思うのですが、SAPIENS との出会いといいますと・・・

伊東龍也 2 年前になりますが、農協システムにおきまして 9 農協が 2000 年対応できないということが判明しました。加えて、IBM9221 の製造中止の発表がありました。その後継機の導入となりますとまた費用がかさんでしまうということで悩んでいたところ、エニコム社が提供している ENICOM システムの導入を検討していた時に SAPIENS の紹介を受けましたのがそもそもです。

小師俊之 そうでしたね。ENICOM システムに VSE の資産を載せて継承できないかということが話の発端でしたね。IBM9221 から IBM2003 にすれば性能はもちろん上がることは確かですが、費用も 1.4 から 1.5 倍になってしまうということで、JA 単独ではとても賄いきれないし、将来的に、こうした重いハードウェア資産をベースとしたシステムは考え直した方



がいいのではないかが検討課題になりました。

一方、ハードウェアが向上してもソフトウェア周りが進展してこないようでは、システム全体の機能が変わり映えしないのではないかと、ならば機能／性能は従来通りにして、コストだけを下げない方法はないだろうかということで、八方手を尽くしていたところ、ENICOM システムに当たったというわけです。

伊東 実際に ENICOM システムで従来のアプリケーション資産が動くかどうか調べたいから、マシンを試用させてくれないかという話をしている課程で SAPIENS の紹介を受けたのです。

小師 私も、ソフトウェアツール自体につきましてはいろいろと情報を収集したり、研修会、説明会などに参加して勉強してきましたし、そのうちのいくつかは是非とも採用したいと思いましたが、何と言っても、農協システムは今、余計な金は使えない状況で、DB2 の採用も無理だし、CASE ツールなどはもってのほかという状態で諦めていました。何と言いましても、VSAM、CICS の世界できていましたから。

そんな時に、「こんなこと本当にできるの」という可能性を見せつけてくれる SAPIENS に出会ったのです。

木村 (笑) なるほど。

伊東 ところが、SAPIENS につきましてはともかく、ENICOM というハードウェアの導入に農協が難色を示すのではないかと懸念をしていたところ、AS/400 シリーズの紹介を受け、スペックとプライスを調べ、コストの大幅ダウンが期待できることが解ったのです。

一方、経済連システムは日立マシンで、農協システムは IBM マシンということで、共通の資源活用がまったくできていなかった点も何とかしようということで、いっそのこと、経済連システムを IBM マシンにして、統一を図ろうと検討が進められていました。当然、IBM のメインフレームがその後継機として検討されていたのですが、こちらの方も、一気に AS/400 にしてしまおうということになりました。

深山 そうしたハードウェアのリプレースによる大幅なコストダウンの実現も SAPIENS 導入の英断をトップから買える材料となったとも言えます。

木村 なるほど。

内部の人的資源を使え

ハードウェアのコストダウンもさることながら、ソフトウェア資産の農協への提供とカスタマイズ、そして維持管理を考えますと、大変な負荷と工数がかかります。ところが、ここで過去のソフト資産を捨ててでも、SAPIENS を導入した場合の生産性向上は期待できると判断されたのでしょうか？

深山 現在、私どもでは 2,700 本のプログラムがあるのですが、このメンテナンスを外

注しますと、約 10 億円かかると見積り試算されています。これでは、私ども電算部門の
人件費の 5 倍以上になってしまいます。

それならば、内の人的資産を使った方がいいのではないかということになりました。実
際の話、10 億円の予算を出してくれとはトップにとっても言えませんからね（笑）。

木村 （笑）。内部の人的資源で対応する限り、その飛躍的な生産性向上が必須である
し、SAPIENS がそのニーズに対応しているということですね。

深山 そう判断致しました。

伊東 従来のソフトウェア資産に対しましては、結局手出しができない状態のまま今日
まできておまして、極端な場合、マシンのリプレースのたびに 20 年も前に書かれたプ
ログラムを再稼働できるように手直ししたりしてきています。

一方、最新のハード／ソフト環境で開発されたものも、そこに同居するといった、奇妙
な状況にあり、正確に言って、せっかくの最新リソースが十分に活かされていない状態な
のです。

しかも、今現在の電算部門は全員が、コンピュータ化ゼロの状況からスタートした経験
者ではないわけですから、逆に 20 年前のシステム開発のやり方／手法に縛られることな
く、しかも、ゼロの状態からの出発を経験してもいいのではないか、という考え方を部長
には申しました。

深山 「無謀」だったという意見があるかもしれませんが、私どもでは「革命的ステッ
プ」だったと考えております。

木村 十分に革命的なステップだと評価致します。常識的には、二の足を踏むシステム
部門が多いと思います。やはり、それだけ SAPIENS というツールを評価したというこ
とでしょうか。

深山 もちろん、そういうことです。

ちなみに企画書レベルで、開発スピードに関するチェックを中心に、信頼性、稼働性、
保守性などを綿密にチェックしております。

生産性／保守性は飛躍的に向上

木村 実際の導入決定から稼働までの開発スケジュールはどのようでしたか。

伊東 私どもに SAPIENS の開発バージョンが導入されたのは昨年 3 月上旬のことで
して、正式に私どもが活用に向けての講習を受けましたのが、4 月からゴールデンウィーク
明けかけてでした。

それから 2 年の間に 10 農協のシステム移行がノルマとして義務付けられていましたか
ら、昨年中には何としても最初の農協システムが稼働しなくてはならないというスケジュー
ルでした。

ちなみに、6 月から本格的な開発作業に入りまして、10 月には JA 夷隅中央のシステム

がカットオーバーしております。

木村 よくできましたね。

通常ですと、どんなに早くとも半年以上かかりますからね。

伊東 そうですね。しかもすでに開発されているシステムで。それをカスタマイズしていくといったレベルが半年はかかるというのが、従前の常識でしたからね。

木村 やはり、それも SAPIENS というツールを活用したからという実感ですか。

小師 実際の開発作業をした経験から、間違いなく、100%、SAPIENS を使ったからこそできたことだと、強く実感しています。

私自身は、農協システムについて過去 3 回、スクラップアンドビルドの経験を持っています。そのうち 2 回はオンラインシステムを手掛けておまして、どうしても使いたいのとして考えていたツールに DB2 があるのですが、予算的に導入が許されませんでした。

また IBM の講習会などを通じて解りましたことは、DB2 のようなツールを導入すると、便利なのがある一方で、その維持管理が大変だし、何よりもその習得がさらに大変というように、予算的問題だけでなく課題が多く存在することでした。

そこでサピエンス社に対しても、「私はリレーショナルデータベースに関する基礎的知識を含めて DOA（データ・オリエンテッド・アプローチ）や RAD（ラビット・アプリケーション・デベロップメント）システムなどの手法／方法論の基礎習得ができていないのですが SAPIENS は使えますか」と確認したのです。

そうしましたら「それがなくとも使えるのが SAPIENS というツールですよ」と言われ、非常に安心して使うことができました。そして、その活用効果も使い勝手も、申し分ないものとなっています。

木村 開発ツールに精通していなくとも、過去に農協システムを手掛けていたことから「業務知識」に精通していたということが、小師さんをしてシステム開発の生産性向上を実現させた大きな要素なんでしょうね。

伊東 まったくその通りだと思います。

木村 8 月現在までにいくつの農協へのインストールが完了しているのですか。

小師 7 農協にインストールされ、本番稼働しております。

木村 メンテナンスはなどはいかがですか。

小師 従来システムでは考えられないほどのやりやすさで、生産性向上は飛躍的です。

木村 本日はありがとうございました。

（文責：在記者）

※ 本記事は ComputerReport 誌から WebCR への再編集登録版です。

JCOPY <(社)出版社著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、一般社団法人出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。